

## 6. やさしい育成技術

# ブレーキング      ドライビングと騎乗馴致 ～ 馴致5日目・6日目・7日目～

軽種馬育成調教センター 技術普及課 齋藤 昭浩



補助者付のドライビングまで順調に進み、今後の調教が楽しみになってきたケン君。また、それに応えるようにパルル号もケン君を信頼しているようです。5日目以降のトレーニングはどのように進めていくのでしょうか？

今回も、BTCの研修で行っている競走馬の育成方法と研修生の指導方法や注意事項を踏まえ解説していきたいと思います。



### 「ドライビング ～馴致5日目～」

ケン：初めてのダブルレーンでのロンジング、そしてドライビングも順調ですね。

教官：はい。今まで行ってきたロンジングでの約束事（前進・減速・停止）が確立されているためですね。この調子で、パルルに安心感を常に与えながら進めていきます。

5日目のパルルは、ローラーの装着・ダブルレーン・ドライビングに対して従順に受け入れているため、馬房からドライビングの形で補助者に誘導してもらいながら始めましょう。

ケン：はい、わかりました。昨日、従順だからと言って過信することなく慎重に進めて行きたいと思います。

教官：その通りですね。特に、馬房から馬を出すときなどは驚きやすいため十分に声をかけて安心させながら行いましょう。また、円馬場では、前日同様に10分～

15分間ダブルレーンでのロンジングは手前を変えながら繰り返し行い、良ければ補助者付のドライビングを行いましょう。円馬場でのダブルレーンロンジングは、速歩での実施が目標です。しかし、駈歩になったとしても無理にレーンを引っ張る必要はありません。そのまま、声をかけて落ち着いてくるのを待ちましょう。パルル自身が納得して運動することが大切です。仮に、レーンを引っ張ってパルルを減速させようとしても、無理でしょう。パルルはまだ、理解していません（図1）。





図1 ダブルレーンでのロンジング

ケン：教官！両手前とも、とても落ち着いて運動できました。手前変換も昨日に比べてとても楽に出来ました。声への反応が素晴らしいです。

教官：GOOD - JOB！パルル&ケン君！日々、パルルは学んでいるのですね。それでは、補助者を付けて円馬場内をドライビングしましょう。（図2）



図2 ドライビング

ドライビングでは、実施者が主導権を握るよう徐々に行っていくが、方向変換や減速が困難の場合は補助者に任せましょう。無理をせず馬が納得して理解していくことが大切です。また、馬を停止させる場合は、

声による合図を理解しているため、停止合図の声をかける。レーンを引く。の順で実施することで容易に行えます。この方法で停止しづらい場合は、補助者に止めてもらいましょう。

### 「騎馬馴致 ~ 馴致6日目 ~」

教官：今日は前日と同様の作業を行った後、騎乗馴致を始める予定です。

ケン：いよいよ騎乗していくための第一歩ですね。

教官：そうですね。まずは、10分位軽く両手前ロンジングを行なった後、ドライビングを実施しますが、今日からは補助者なしで行いましょう。最初は戸惑いを見せますが、徐々に慣れてくるはずです。（図3）



図3 ドライビング

ケン：ロンジングでは非常に落ち着いていますね。ドライビングは補助者なしでどうかな？

きょ、教官～！パルルがフラフラして、まっすぐ歩いてくれません！方向変換も非常に難しいです！補助者

の有無でこんなにも違うのですか？

教官：そうですよ。今までは補助者がいたから、安心して前進していたことがよくわかりますね。しかし、良く声をかけ常に前進させるよう実施していくことですぐに理解できます。その際、新しい場所で行うのではなく普段慣れている場所を選定することが大切です。

ケン：わかりました！きゅう舎の周りで行います。

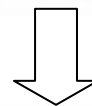
教官：それは良い選択ですね！パルルの気持ちを大切に考えてあげてください。「急がば回れ」ですよ。馴致の重要性はここにあります。

ケン：教官！パルルが急にほぼ指示どおり、動くようになってきました。まるで、何かのスイッチが入ったように変わってきました。

教官：素晴らしいです。明日は、もっとドライビングし易くなっていますよ。それでは、馬房に戻り、騎乗馴致を始めましょう。

ケン：ドキドキですね！

教官：ですね！楽しんでいきましょう。



### 騎馬馴致の手順

ロンジング、ドライビング終了後、馬房内または円馬場で騎乗の準備を行う。作業中は絶えず声をかけ、パッティングを行いながら進める。

補助者が馬を保持し、もう一人は馬の横でパッティングを行いながら小さくジャンプする。

徐々にジャンプを大きくする。

右手をローラーに回し、軽く体重をかけるようにする。

補助者に足を上げてもらい、ゆっくり横乗りを行い、これを何回か繰り返す（図4）。

大人しければ横乗りの状態で馬を常歩で小さく回し歩かせる。

パッティング：落ち着かせるため平手で音が出る程度に首筋や肩を叩く行動。



図4 横乗り

「騎馬馴致 ~ 馴致7日目~」

教官：まずは、前日と同様にロンジング・ドライビングを実施しましょう。

ケン：ロンジングは、全く問題なく終わりました。さて、ドライビングはどうか～？

教官：きっと、昨日より実施し易いはずですよ。

ケン：どうして解るのですか？

教官：なぜなら、パルルはお利口ちゃんだからDE・SU・YO！

ケン：……………。



教官：え～、パルルだけでなく馬という動物は記憶することが得意であり、褒められることが好きだからです。昨日のケン君は、パルルをよく褒めていましたね！パルルはとても穏やかな表情でしたよ。

ケン：それでは、行きます。

お～、確かに昨日とは比べ物にならないくらい、操作し易いです！

教官：それでは今日は色々な場所を1時間位ドライビングして、パルルもケン君もハッピーな気持ちになりましょう。

ケン：はい！



……………1後……………

教官：とても、良いドライブでしたね。常に前進させていることで馬がハミを受け、真直ぐに歩いています。それでは、馬房内に戻り騎乗馴致を行いましょう。今日は、横乗りで歩かせる時間を長くし、大人しければ右足を馬の背にかけた状態で歩かせましょう。その時、上体は低くして置きます(図5)。



**図5 右足を馬の背にかけた横乗り**

**ケン:** なぜ、上体を低くしなければならないのですか？

**教官:** 上体を起こしていると、馬はいつもと違う場所に人間が見えるため、恐怖を覚え、暴れることがあります。また、上体を低くしていることで、もし馬が暴れた場合でも下馬し易く、安全であるからです。

**ケン:** なるほど。どんな行動にも必ず「人馬安全」ということが徹底されているのですね。

**教官:** そのとおりです。「人馬安全」これは、絶対に守らなければなりません！君たちは調教技術者という「人材」ではなく、牧場にとって「人財」なのですから。



**図6 A 足を馬の背にかけた横乗りで馬が大人しいのなら、頭を低くしたままで跨ります。**  
**B 問題なければ声を掛けながらゆっくりと頭を上げます。**

イラスト：山本智也

(日高大洋牧場勤務：BTC 養成研修第 18 期 修了者)

